2015.9.17
vol.42

シネマ・ド・りぶらの
コラム・ド・シネマ

映画を読む

本日の上映作品

地下室のメロディー

9月17日（木）
① 10:30 ～ 12:30
② 14:00 ～ 16:00

大御所ジャン・ギャバンと若手トップスターアラン・ドロンが初めて共演した犯罪映画の傑作。洗練されたモノクロ映像、軽快なファンキージャズのテーマ、主人公二人の卓越した心理描写が光るフィルム・ノワール史に残る名作。

監督：アンリ・ヴェルヌイユ
原作：ジョン・トリニアン
出演：ジャン・ギャバン、アラン・ドロン、
ヴィヴィアーヌ・ロマンス
製作：1963年フランス　モノクロ
上映時間：118分

『遠い空の向こうに』感想

・スーパーマンになった油井さんが話題になっている今、この映画を選ばれたスタッフの方に先見の明があるなと、とても感心しました。
・宇宙飛行士の油井さんを思い出します。一途な少年たちが育ちますように。
・アメリカらしい、明るく、活力のある、楽しいシネマでした。
・米国のよき時代の、映画のよき時代の映画をありがとう。
・若者の夢、時代のうつり変わり、家庭の事情、いろいろな思いの中で発明・発見が生まれる。スバラシかったです。感動しました。
・このように科学が進んでいくのか…。夢をもつ若者の応援をする役目があるのだと思った。
・自分も技術者なので、物語の内容がイヤというほど分りました。・何事もあきらめずに実行すれば夢は必ずかなう、と思いました。とてもよい映画でした。
・信念をつらぬくことの素晴らしさを強く感じました。
・4人の高校生が良かったです。館内が涼しすぎて、上着が1枚必要。
・ロケットに興味があったからよかった。
・若い人に見てほしい！
・父の愛情で、ほろっと涙が出た！
・実話の映画で素晴しかった。
・さいごはとても good でした。
・初めての映画でした。感動しました。次の名作に期待してます。ありがとうございます。
・感動と感激をありがとう。来て本当によかったです。
・初めて来ましたけどとってもよかったです。ありがとうございます。
・久し振りに心に残る映画に出会えました。
・昔の日活、東映（ヤクザ映画）が観たい。

映画を読む
『地下室のメロディー』

ギャバンとドロン初共演のおしゃれなフランス製ギャング映画

冒頭、ギャバンが出所して５年ぶりに我が家に帰ってくるシーンは、ジャズっぽいテーマ曲に合わせて流れるオープニング・クレジットとあいまって、何となくフランス風で、とてもおしゃれな感じです。

緑が多かった家の周りはビルが立ち並びすっかり変わっていたのに、家の中は５年前とほとんど一緒。いつ彼が出所するのか知らされていなかった恋女房は、彼が入ってきた時、内心はびっくりしながらも、それをおくびにも出さず「あら、早かったわね。」「出所の時間は朝の７時ときまってるんだ。」ぶすっと応えるギャバン。この二人のやりとりが絶妙。何ともよかったです。

およそギャング映画にふさわしからぬ場面を重ねながら、ヴェルヌィユ監督は、裏社会に生きてきた初老のギャングの匂いと生き様をジワーッと引き出してゆきます。私が初めて観たギャバンの出演作、フィルム・ノワールの原点ともいうべき『現金に手を出すな(1954)』でのギャバンは、人生の哀愁を知りつくし、孤独に生きる男のダンディズムをにじませていましたが、その時から確実に９年分年をとったこの作品でのギャバンは、チョットやソットでは動じない貫禄で勝負しており、何気ない動作の一つ一つが何とも言えない味を出しています。

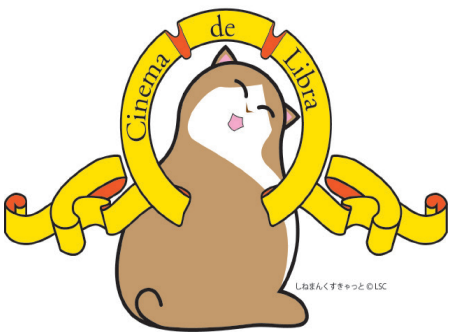
奥に崩れた卑しさと危うさを秘めた魅力で若手ナンバーワンとなったアラン・ドロン。右頬に作り傷をこさえたこの作品のドロンはとにかく悪そう。ショーガールの扱い方、高級スポーツカーの乗り回し方、マシンガンを箱から取り出す仕草等、ドロンにも何か貫禄のようなものが漂っていました。ドロンがギャバンの半端ではない貫禄におされっぱなしでなかったのはさすがです！

この二人が組んで、コートダジュールのカジノの売上げ十億フランをせしめる作戦が着々と組み上げられていきます。綿密な準備と決行。息もつかせぬ緊張感の盛り上がり。そして成功！さらに最後の最後での思わぬ展開！「最後のシーン」は非常にユニークな映像で印象深く、リアリティを捨ててでも劇的な緊張感を高めようという演出は世に好評だったようです。

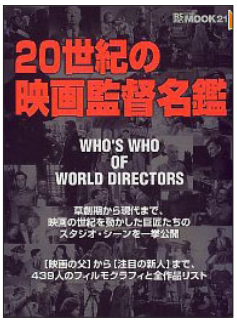
ただ、劇中のギャバンとドロンにすっかり感情移入してしまっていた私には「なぜあそこでああしなかったのか！」という残念感とやるせなさが残って仕方がありませんでした。
完全犯罪の成立が許されない映画の掟は百も承知なんですが……。
最後に、この作品にまつわる話題を二つ。

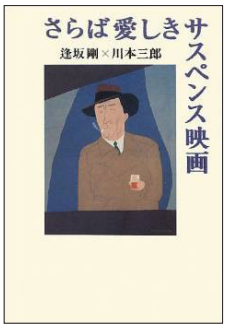
１）全編に流れる派手でかっこいいモダン・ジャズ風のテーマ曲“Palm Beach”は、後にスタンダード・ナンバー的な存在になり、ホンダ・プレリュードやサントリーのコーヒー BOSS の CM などにも使われました。

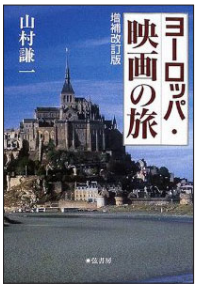
２）この作品が日本で公開されたのは 1963 年ですが、翌年この映画の影響を受けて、東映が『御金蔵破り（1964）』という作品を石井輝男監督で製作しました。ジャン・ギャバン役に片岡千恵蔵、アラン・ドロン役に大川橋蔵というなかなかのキャスティングでした。高倉健を一躍スターにのし上げた『網走番外地』シリーズ（1965～1967）はこの石井輝男監督の作品です。（K.M.）

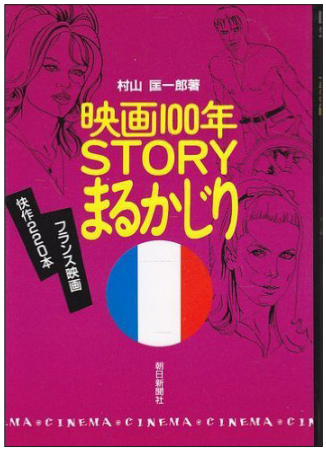


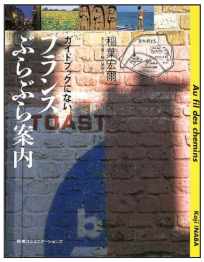
『ジャン・ギャバン』	アンドレ・ブリュヌラン	時事通信社	778
『２０世紀の映画監督』	Mook21	共同通信社	N 778.2
『アラン・ドロン 映画に挑戦しつづける美貌』		近代映画社	N 778.2
『アラン・ドロン 孤独と背徳のバラード』	南 俊子	芳賀書店	778
『ぼくの大好きな俳優たち』 植草甚一スクラップブック	植草 甚一	晶文社	N 778.2
『ファンの心をときめかせた 世界の映画ベストセレクション』	渡辺 祥子	近代映画社	778.2
『外国映画ハラハラドキドキぼくの 500 本』	双葉 十三郎	文春新書	I 778.2
『20 世紀の大スター 100 撰 エピソードとロマン』		毎日新聞社	778.28
『さらば愛しきサスペンス映画』	逢坂 剛	七つ森書館	778.04
『オールタイム・ベスト映画遺産 外国映画男優・女優 100』		キネマ旬報社	778.2
『オールタイム・ベスト映画遺産 キネマ旬報映画音楽篇 映画音楽ベスト 20 発』		キネマ旬報社	N 778.2
『映画 100 年 STORY まるかじり フランス篇 フランス映画快作 220 本』		朝日新聞社	778.2
『わがフランス映画誌』	山田 宏一	平凡社	778.235
『フランス映画史の誘惑』	中条 省平	集英社	778.235
『ヨーロッパ・映画の旅』	山村 謙一	弦書房	N 778.0
『ガイドブックにないフランスぶらぶら案内』	稲葉 宏爾	阪急コミュニケーションズ	G 293.5





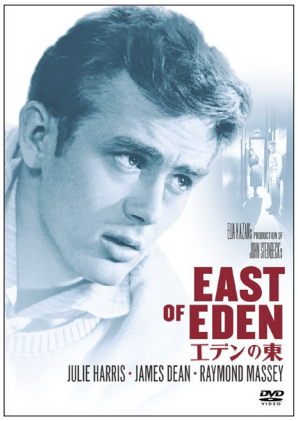






インフォメーション

第 43 回
『エデンの東』



10 月 15 日（木）
① 10:30 ～ 12:30
② 14:00 ～ 16:00

旧約聖書の「カインとアベル」を下敷きにしたジョン・スタインベックの原作を名匠エリア・カザンが監督したジェームス・ディーンの本格デビュー作。第一次世界大戦下のカリフォルニア州サーリナスを舞台に、孤独を抱えたナイーブな青年の青春と家族との確執を描いた作品。

監督：エリア・カザン
原作：ジョン・スタインベック
出演：ジェームズ・ディーン、ジュリー・ハリス
　　レイモンド・マッセイ
製作：1954 年アメリカ　モノクロ
上映時間：118 分

第 44 回
『群衆』

12 月 17 日（木）
① 10:30 ～ 12:35
② 14:00 ～ 16:05

クビになりかけた女性記者アンが起死回生の策として、一人の架空の自殺志願者を創り出す。オーディションに受かった男は元野球選手ウィロービー。名無しの権兵衛＝ジョン・ドゥーと名付けられた彼は、自殺の期日を定められ、その動向を日々追われ、彼女の新聞記事となっていく……。

監督：フランク・キャプラ
原作：リチャード・コネル、ロバート・プレスネル
出演：ゲイリー・クーパー
　　バーバラ・スタンウィック
　　ウォルター・ブレナン
　　エドワード・アーノルド
製作：1941 年アメリカ　モノクロ
上映時間：124 分

サロン・ド・シネマ

ホールホワイエにて、10 月より再開

寄付金でお茶菓子を提供します。
映画の上映前にご利用ください。

午後の部の上映終了後に、2 階の活動コーナーにおきましてスタッフの打合せをしています。上映会の運営に関心のある方は、お気軽にご参加下さい。

今後の上映予定（毎回木曜日）

1 月 21 日　『トップ・ハット』
2 月 18 日　『雨の朝パリに死す』

※ 開催日及び上映作品は、
　変更になる場合があります。

託児：500 円
（各回 5 名まで）
申込みは、
1 週間前までに。

「シネマ・ド・りぶら」の賛助サポーター受付中！　年間：1口　2,000 円から

随時、ご寄付も
受け付けています。

図書館の DVD 資料だけでは、無料で上映できる作品が限られています。あなたの賛助で、上映作品の幅が広がります。登録は市民活動センターへ。相談窓口：戸松 070-5333-1842